



天台佛青連

発行人／寺門俊明

編集／天台仏教青年連盟 布教広報委員会

発行所／〒214-0023 神奈川県川崎市多摩区長尾 3-9-3 妙楽寺内

印刷所／〒960-2101 福島県福島市さくら三丁目 2-7 福島カラー印刷株式会社

郵便振替／天台仏教青年連盟 02250-5-6765

平成22年
2月発行号

今できること

天台仏教青年連盟代表

寺門俊明

天台仏教青年連盟の会報発行にあたりご挨拶申し上げます。

日頃より延暦寺一山をはじめ全国の天台宗寺院ご住職様、各教区仏青会員の皆様におかれましては私ども仏教青年連盟の活動に対しまして格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。



今年が天台宗仏教青年連盟創立40周年です。

特集：6-7頁

40周年記念事業に向けて

結集10年間の歩み



index

代表挨拶	1
天台宗宗務総長「ごあいさつ」	2
延暦寺執行「ごあいさつ」	2
平成21年度天台仏教青年中央研修会	3
平成21年度天台仏教青年連盟福島結集	3
教区仏青活動レポート	4・5

◇特集◇

40周年記念事業に向けて 結集10年間の歩み	6・7
---------------------------	-----

第32回東日本仏青親睦野球・南総大会	8
協賛金協力者ご芳名	9～11
平成21年度常任委員会委員長報告	12

平成二十一年五月に綾小路前代表より引き継ぎスタートした新体制も、お陰様で一年を迎えようとしております。この間、さまざまな出会いや行事に参加する機会に恵まれ、大変貴重な経験をさせて頂いております。

本年度の事業である連盟全国大会福島結集では、大会テーマである『努力めよ 努力めよ』のもと、ハワイ別院住職の荒了寛先生に「天台宗海外伝道の意義と課題」についてご講演を頂きました。また、十月の中央研修会では、福井県の東尋坊で自死を望む人に声をかけ続けている茂幸雄氏に「止まらないう自死」宗教者に期待すること」という演題でご講演いただき、その後真剣に自死について

参加者全員でディスカッションを行うことが出来ました。

今社会ではさまざまな不安が蔓延しています。一昨年のリーマンショックに端を発した経済不安、それに伴う雇用不安、デフレ、最近の新型インフルエンザ等による不安、また年間の自死者数が三万人を越えるという事も見過ごす事はできません。

全国の一〇団体で結成されたとお聞きしております。それから四十年、加盟団体は現在二十六教区におよび、会員数は九三〇名の大きな団体に成長しております。これも偏に歴代代表をはじめ役員の皆様、そして全国の仏青会員各位のご尽力のお陰であると深く感謝いたしております。四十年前の天台仏教青年連盟設立総会では、宣言文が採択されました。我々はもう一度原点に立ち返って、設立宣言文の精神を忘れず、実践していく事が重要であると思います。

今後とも当連盟の更なる発展のため精進してまいりますので、変わらぬご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十一年度天台仏教青年中央研修会が、平成二十二年十月二十日・二十一日の二日間にわたり、全国から約五十名の青年僧の参加のもと、延暦寺会館を会場に開催されました。

日程の第一部として、NPO法人心に響く文集・編集局代表・茂幸雄氏をお迎えして『止まらない自死：宗教者に期待すること』と題して、命というものがどう大切か：宗教者として伝えていくことが出来るのか？など自死について講演をいただきました。



「止まらない自死」と「現代の寺子屋活動」

平成二十一年度天台仏教青年中央研修会

九州東仏青 上田 大祐

第二部としては、真言宗智山派智山教化センター・高岡 邦祐氏を講師にお招きして『現代の寺子屋活動』について講演を受け、寺子屋の理念として、宗教的情操心（皈依・感謝・懺悔・慈悲）を寺院という場から子供達に伝えていくこと。その中で、高岡先生の自坊では、平成十八年から寺子屋活動にあたっており、一人で出来る範囲で行う「寺子屋」での体験を親子の会話の材料にしたり、もう工夫など、寺子屋プログラム集の実例をもとに紹介していただきました。

その後、分散会では五グループに分かれ、講演会をふまえた上で、各研修生自身が自坊での具体的な経験や活動を話し合い、全体会（各班毎に）で発表しました。

教区・地域による違いはあるものの、積極的に社会と関わりながら、「命」の大切さを、宗教者として伝えていくという強い気持ちを感じ取ることが出来ました。



東北の地にて三十年ぶりの結集開催

平成二十一年度天台仏教青年連盟全国結集 福島大会

福島仏青 寛 広大



七月一日・二日の二日間、福島県郡山市磐梯熱海町ホテル華の湯にて、天台仏青連盟全国結集 福島大会が開催されました。御来賓として西郊良光宗機顧問、源田俊昭社会部長、渡辺亮海福島教区所長を始め、教区内諸大徳様ご臨席の下、全国より一七〇名あまりの天台仏青会員が集結し開催されました。

初日は福島県須賀川市出身でハワイ開教総長・ハワイ別院住職であられます荒了寛先生による講演会が開かれました。今回の結集のテーマ「努力めよ 努力めよ」の言葉にあるように、ハワイ開教の経緯、ご苦労、海外開教の意義など長時間に渡り講義頂き、今後の海外活動に対する私たち青年僧の役割を考えさせられる講演でした。又、夜は同ホテル内にて懇親会が開かれました。

二日目は会津若松方面へ移動研修、市内飯盛山の白虎隊墓前にて回向後、会津武家屋敷を見学して、昼食後解散となりました。

全国より多くの皆様にご参加頂き、盛会に終わる事ができました。有難うございました。



ごあいさつ

天台宗宗務総長
阿 純孝

口惜しいかな、柄ではないという言葉がぴたりと当てはまる総長の阿です。四年間よろしくお願い申し上げます。

さて、青年というのは人生のある時期のことですが、いつ頃を指すのかとなると、それがよく分かりません。分からない時には辞典。広辞苑を引きますと、「青春期の男女。多くは十四・五歳から二十四・五歳の男子をいう」とあります。

男女といったり男子に限定したりで、これまたややこしい。要するに「わかもの」という漠然としたいい方が一番よさそうです。そこで、若者たちに申し上げたいことがあります。

「ガンバレ」とか「一生懸命にやれ」とは申しません。若いうちだからこそやることをやりましょう。それは何かに夢中になることです。我を忘れて物

事に熱中できれば、十分に満足の時を得ることが出来るはずですよ。そのような時を持つ経験がないと、老後は淋しくなります。

ところで、伝教大師は、己を忘れ他を利すようにと諭されています。この「忘己利他」と忘我熱中とは質的に違いがありますが、敢て申し上げます。身底熱中できる精神力がなければ「忘己利他」はできないと思います。

現代社会は「忘己利他」とは逆の「忘他利己」になっていきます。だから、ギスギスするので。競争社会が生んだ弊害といえるでしょう。己を他と比べ、他を蹴落としてでも己を優位にさせたいという思いは決していいことではありません。ですから、現代社会には伝教大師の教えが必要なのです。あなた方は法を説く力を充分備えています。そのことを知ってください。



ごあいさつ

延暦寺執行
武 覚超

プールし、また布帛し広めていくかということが大事なことであらうと思います。

そうすれば檀信徒との絆もさらに深く結ばれ、若者もお寺の大切さ必要性を認識してくれるのではないのでしょうか。単に行事や葬儀を執行するだけの形式化形骸化した仏教ではないかと思えます。

その意味で、将来の天台宗や仏教界を荷なつて頂く天台仏教青年連盟の皆様には、一層のご研鑽とご活躍を心より期待申し上げます。

經本山延暦寺 御用達 中末法衣店 〒606-8277 京都市左京区北白川上池田町12-1 TEL 075-723-8865 FAX 075-723-8867	井筒法衣店 代表取締役社長 幾田 潤 〒600-8503 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前) 電話 075-365-0001(代) FAX 075-353-7021 東京店／東京都新宿区三栄町11-6 電話 03-3358-1500(代表)	天台宗専門法衣司 山科大西法衣店 〒607-8357 京都市山科區西野槇川町45-21 電話(075)591-9159 FAX(075)502-5418 0120-568-024
---	---	--



群馬 馬天台青年会は創立四十周年を迎え記念事業の一つとして、平成二十一年十月二十八、三十日に「元三大師一千二十五年御遠忌報恩法要・研修旅行」が開催されました。群馬仏青では天台宗開宗一千二百年慶讃大法会期間中、教区寺院に納経された写経八千巻を奉納する「比叡山報恩写経奉納法要」を根本中堂において修し、感銘した私達は会創立四十周年でも延暦寺一山寺院の堂宇を拝借して記念法要を奉修

馬青
群

創立四十周年特別事業

青柳 興裕



したいと思案していました。折しも比叡山中興の祖である慈恵大師良源様が入寂されて一千二十五年の御遠忌を迎えたご縁に恵まれ、また天台雅楽会（杜多道雄会長）で御遠忌に「舞樂法要」を企画検討している話を聞き、一仏青の創立記念事業としてではあるが元三大師堂当執事様、横川院内ご住職様方に四季講堂（元三大師堂）に於いての法要を快諾して頂きました。このご縁を群馬一仏青に限らず近隣教区仏青有志にお声掛けをして、延暦寺・茨城・埼玉・東京・南総・北総・信越の各教区仏青有志と天台雅楽会のご協力を頂き、総勢五十一名による中間帳の報恩法要「舞樂法要庭儀曼荼羅供」を二十九日に奉修しました。法要当日は、お大師様のご加護あつて秋の好天に恵まれ、声明、雅楽の音色が静寂な横川の

地に澄み渡り、慈恵大師様のご教示お心に崇敬して集った有志一人一人の喜びや報恩の心がお大師様に伝わっているであろうという感概に浸れる思いがする法要となりました。法要終了後には延暦寺を代表し小堀光實副執行様から「今日の法要における皆様



田真成住職（願興寺（三岐教区、小川文甫住職）を参拝しました。延暦寺長騰をはじめ研修参拝寺院御住職、群馬教区諸大徳、各仏青有志の皆様には心より御礼申しあげます。この他の特別事業として、今回の報恩法要の別回向にお唱えした「慈恵大師和讃」の研修会、ペットボトルのキャップや使用済インクジェットカートリッジを回収して、世界の子供にワクチンを日本実行委員や社会福祉協議会等の諸団体に委託して、ポリオワクチン等の医薬品に変え世界の子供たちに寄進するボランティア活動、座禅指導者研修会等を進めています。報恩法要の際にご来賓から頂戴いたしましたお言葉を糧として、先徳の築いてきた伝統を受け継ぎながらもさらなる発展を目指し、皆様のご協力で成り立っている感謝を忘れず会員一同一丸となって精進したいと思います。つきましては、今後ともご指導ご鞭撻をお願い申しあげます。

▶▶▶群馬仏青の活動については会のホームページをご覧ください。 <http://gunjou.jimdo.com>

各宗本山御用達 各宗珠数製造販売 お珠数専門の老舗 小野珠数店 〒604-8045 京都市中京区寺町通蛸薬師下ル 電話 〇七五(二二)二六〇八 FAX 〇七五(二五)六二二八	仏像の製作修復 無料見積り致します (有)みやこ仏像 埼玉県新座市野火止 6-8-3-417 TEL 048-481-7133 FAX 048-481-9662	寺院用品販売 大和商会 代表 宮崎忠昭 〒340-0005 埼玉県草加市中根1-12-15 電話 048-931-7354(FAX兼)
---	--	--

教区仏青活動レポート

木青
栃

栃木教区青少年研修会

村田 詔田



年七月三十日に第一回天台宗栃木教区青少年研修会と題して、青少年（小学生以下）のミニ修行体験を佐野部清水寺に於いて開催された。この研修会を開くに至ったのは、青年・若年の世代にお寺というものをまずは知ってもらいたいという所にあった。近年、檀信徒並びに一般の方々の寺離れという問題に目をそらすことは出来ない。それは、私達僧侶の怠慢がもたらした結果と言われてもいたしかたないことである。そこで、布教活

動・人材育成の一環としてこの青少年研修会を企画し、少しでもお寺や僧侶と触れ合う機会を設け、青少年に仏教的な体験をしてもらいたかったのである。幸いにも、県内各地からの申し込みがあり、当日は五十人余りの青少年が参加した。研修会の内容としては、座禅体験・法話・法要・写仏・掃除等の修行的要素を含む体験や、レクリエーション・山登り探検等の遊戯的要素を含む研修など多岐にわたった。お寺という日常生活では触れ合うことのない空間は、子供たちの好奇心を刺激したのか、全ての催しにおいて積極的に参加してくれた。本年より第一歩を踏み出した天台宗栃木教区青少年研修会が、来年以降も脈々と受け継がれ、寺院と青少年との懸け橋となることができたと願う次第である。

私たち東海仏青では、法儀研修会を毎月一回程度開講しています。講師に延暦寺一山明徳院住職中山玄童師をお迎え致して、青年僧として習得しておかなければならない基本的事柄について講義していただきました。限られた時間の中、日頃おろそかになりがちな様々な所作、立ち居振る舞いを初心に戻り一から教えていただきました。「日頃からの所作・立ち居振る舞いが実践で必ず反映されてしまう。」との中山玄童師のご指摘に、参加者は気を引き締め講義を受けております。特に日常所作、常用聲明、例儀、基本十八道を事細かくご指導いただきました。普段の法務で一見承知しているようでありながら、おろそかになりがちな様々なことを改めて講義いただきました熱心に聴講しております。また気軽に質問にお答え頂き、ご



香 創業宝永二年 香老舗 松榮堂 京都市中京区烏丸通二条上る東洞 TEL 075-212-5560 FAX 075-212-5565 www.shoye-douco.jp	寺院用莊嚴仏具 密教法具 在家用仏壇仏具 臨本山御用達 佛光堂 京都市下京区寺町通仏光寺下る TEL (075) 351-4092 FAX (075) 351-7231	華頂庵 株式会社 安藤 本社 〇120-29-8161 (法衣部) 〇120-29-8165 (仏具部) 〇120-19-8168 (佛具品部) 東京店 (〒105-0014) 東京都港区芝2丁目15番2 〇120-3232-09 福岡店 (〒812-0036) 福岡市博多区上呉服町12-7 〇120-2143-22
--	---	--

今年の結集は、創立40周年記念結集です。

私共、天台仏教青年連盟は昭和45年に発足されて以来、本年に創立40周年を迎えます。この大きな節目を迎えるにあたり、平成22年度に総本山延暦寺を会場に「天台仏教青年連盟創立40周年記念中央結集」を開催いたすことになりました。

本山での開催には、我々青年僧がもう一度原点に立ち返るという意味が込められています。宗祖伝教大師様の開かれた延暦寺で、宗祖への報恩の誠を尽くし、宗祖の精神を受け継ぐ我々があらためて誓いを立てる機会に是非したいと思っています。全国よりたくさんのご参加をお待ちしております。

天台仏教青年連盟 代表 寺門 俊明



天台宗仏教青年連盟 創立40周年記念 中央結集

- テーマ／
「青年僧としての仏教教化を考える」
- と き／平成22年11月15日(月)・16日(火)
- 場 所／延暦寺会館

岡山・山陰

「伝統の継承と未来への提言」

10月21・22日
岡山全日空ホテル
◆講師／清原恵光師 一島正真師

福島

「努力めよ努力めよ」

7月1・2日
磐梯熱海温泉 ホテル華の湯
◆講師／荒了寛師

**2009年
(平成21年)
福島結集**

**2010年
(平成22年)
40周年
中央結集**

東海

「青年僧は何をすべきか」開宗二〇〇年の今」

10月15・16日
名古屋ガーデンパレス
◆講師／廣中邦充師

**2007年
(平成19年)
東海結集**

四国

「四国の祖師に学ぶ」

7月4・5日
喜代美山荘花樹海
◆講師／野本覚成師 熊澤芳裕師

**2006年
(平成18年)
四国結集**

**2005年
(平成17年)
中央結集**

中央

「天台宗開宗二〇〇年慶讃大法会」

10月19・20日
延暦寺会館
◆講師／堀澤祖門師

茨城

「あなたの中の仏に会いに」

11月16・17日
五浦観光ホテル
◆講師／玄侑宗久師

**2004年
(平成16年)
茨城結集**

**2003年
(平成15年)
神奈川結集**

神奈川

「天台開港く神奈川からの船出」

6月2・3日
パンパシフィックホテル横浜
◆講師／島田裕巳師

**2002年
(平成14年)
兵庫結集**

兵庫

「道心へすべては祈りから始まる」

6月13・14日
神戸ポートピアホテル
◆講師／ひろさちや師

東京

「二十一世紀に我々は何をすべきか？」

11月8・9日
新高輪プリンスホテル
◆パネLDイスカッション

**2000年
(平成12年)
30周年
中央結集**

11月28・29日
◆三千仏礼拝行
◆講師／水尾寂芳師

**2001年
(平成13年)
東京結集**

「道心へすべては祈りから始まる」

る事ができた。記念祝賀会では、渡邊天台座主親下を始め、両内局諸大徳、歴代天台仏教連盟代表諸師、全日本仏教青年連盟加盟団体代表諸師、全国の天台仏教青年連盟会員等多くの皆様の出席を賜った。これらの記念事業は、三十周年を迎える二年前から実行委員会を組織し、委員会ごとに何度も議論を重ねた上で準備され実施されたからこそ魔事無く円成されたのである。

あらためて、諸準備にご尽力賜った当時関係各位に感謝申し上げ、今後の仏教連盟の新たな活躍を祈念申し上げる。フアイト！



30 周年記念誌「道心」より

浄土院への御砂入れ替え作業の実施。「御砂守り」での勧募。記念中央結集として比叡山三塔に全国の仏教参加者が分かれ、過去・現在・未来の三千仏の礼拝行「仏名念」の厳修。この三千仏礼拝の実施に伴い、仏青版「三劫三千仏名経」の出版。(現在も比叡山行院でご利用いただいている。)更に、記念事業終了後「天台仏教青年連盟三十年の歩み」を出版す



三十周年実行委員長

奥山元照

平成十二年「道心」すべては祈りから始まる」をテーマとして掲げ、祖山への報恩感謝の実践として、

道を求める心

天台仏教青年連盟	
協賛金協力者ご芳名（敬称略）	
皆様の絶大なる御支援に心より御礼申し上げます。	
	

天台宗 総務庁	滋賀教区 引接寺	北陸教区 薬王寺	埼玉教区 泉福寺	修験道法流 慈照院	兵庫教区 彌勒寺
阿 純孝	岸 道久	青木 大瑩	清水 英雄	栢木 寛照	草別 碩善
天台宗 総務総長					
総務部長	京都教区 方廣寺	信越教区 長養院	群馬教区 光巖寺	北海道管内 妙法寺	岡山教区 千光寺
杜多 道雄	木ノ下 寂俊	小林 玄海	田中 祥順	岡 秀法	葉上 観行
法人部長					
山田 亮清					
財務部長	近畿教区 那智山青岸渡寺	神奈川教区 等覺院	群馬教区 妙見寺	教区宗務所長	
阿部 昌宏	高木 亮享	中島 有淳	小川 晃豊	見上 知正	
教学部長					
齋藤 圓眞					
社会部長	四国教区 行泉寺	東京教区 法蔵院	栃木教区 城興寺	滋賀教区 長壽寺	九州西教区 大善寺
村上 圓竜	柞原 俊孝	杜多 徳雄	福武 安文	長山 慈信	甘井 亮淳
一隅を照らす運動総本部長					
福恵 善高					
宗議会議員	東海教区 甲山寺	北総教区 榮福寺	福島教区 金礼寺	京都教区 穴太寺	三岐教区 常住寺
	可児 光永	鈴木 乗慈	林 光俊	穴穂 行弘	森 喜良

茨城天台仏教青年会		栃木県天台仏教青年会		天台京都青年会		千葉亮賢		陸奥教区 満福寺		山田亮清		陸奥教区 東雲寺		伊鶴覚智		福島教区 千用寺									
福島教区 金 86		栃木教区 日 16		栃木教区 照 7		茨城教区 清 82		埼玉教区 圓 123		埼玉教区 東 7		東京教区 教 90		信越教区 大 93		北陸教区 中 10		三岐教区 新 22		九州東教区 猪 61		兵庫教区 法 34		滋賀教区 旅 91	
藏寺		増院		尊院		瀧寺		能寺		泉寺		学院教会		慶院		道院		善光寺		鹿狼寺		泉院		庵寺	
布教広報委員												天台仏教青年連盟													
委員長 本橋亮智												代表 寺門俊明													
副委員長 寛広大												副代表 高倉聖法													
久保寺 福美												事務局次長・渉外 溝江光宣													
白崎良演												事務局次長・庶務 井藤圭順													
青柳興裕												事務局次長・法務 藤井祐幹													
常葉法雄												事務局次長・会計 松村宗宣													
本郷泉観												会計監査 井上光映													
松村宗宣												会計監査 本郷泉観													
												竹林幸祥													

誤記等がございましたらご容赦くださいます様御願い申し上げます。
平成22年1月末日現在にてご協賛いただきました方を掲載させて頂きました。

地域に広がるタレイ会館ネットワーク

富山県 福井県 滋賀県



私たちは皆様の立場にたって「心」に残るお葬式を執り行っています

タレイ会館奥子	タレイ会館林間
タレイ会館大蔵谷	タレイ会館大久保
タレイ会館新明	タレイ会館魚住
タレイ会館土山	
タレイ会館東加古川	

〒500-0001 富山県富山市南加賀1-1-1 株式会社 **タレイ**

TEL 0120-365-365

http://www.tarui365.co.jp

地水火風空

品質第一をテーマに、自然と調和を大切にした製品作りに動んでまいります。

営業品目 卒塔婆 内焼香 墓木塔婆 ゴマ札 各種葬式あり

塔婆製造販売
(株)協和木工所

東京都西多摩郡日の出町平井1316

TEL 0425-97-0732
FAX 0425-97-1816



三法堂

東京都中央区本町三丁目1番1号
TEL 03-5561-1100 FAX 03-5561-1101

最高級の京仏壇

御本山御用達 京 表 具 こゝろ かつ あん 法悦庵 古文化財保存修理研究所 矢口浩悦庵 本社・工房 京都市上京区衣櫛通り丸太町上る東側 TEL(075)254-6021 FAX 254-6022 http://www.koetsuan.com	社寺建築専門 株式会社 高岡建設 〒289-0346 千葉県香取市油田 1038-6 TEL 0478(82)6636 FAX 0478(82)6602	沈香 白檀 各種焼香 本舗 法要・行事等 記念品「香」受け賜ります 総本山 延暦寺御用達 風間薫芳堂 〒607-8454 京都市山科区榎子奥高代元町21-8 電話 075-591-0121 FAX 075-581-5760
---	--	--

東海教区 成願寺	中村 廣文	北陸教区 帆山寺	天谷 良永	信越教区 善昌寺	大澤 祐仁	神奈川教区 妙樂寺	溝江 光運	東京教区 大圓寺	寺本 亮洞	北総教区 長樂寺	中里 康道
南総教区 妙音寺	浅野 玄航	埼玉教区 高藏寺	吉田 亮照	群馬教区 華藏寺	藤井 祐順	茨城教区 如意輪寺	寺門 俊文	栃木教区 月藏寺	齋藤 宏明	陸奥教区 大長壽院	菅原 光中
山形教区 大圓院	清原 正田	宗内御寺院・団体 (寺籍簿順) 5口以上(協賛の方		九州東教区 臨濟寺	秦 順照	九州東教区 観音院	阿部 昌宏	東海教区 龍泉寺	佐藤 正延	信越教区 不動寺	真明 成光
神奈川教区 円満寺	西郊 良光	東京教区 圓通寺	瀧 良英	東京教区 龍眼寺	市原 孝信	東京教区 津梁院	長澤 徳栄	東京教区 観音寺	本多 賢真	東京教区 圓融寺	阿 純孝
東京教区 圓融寺	阿 純章	東京教区 養玉院	遠賀 庸達	東京教区 大盛寺	林 宗應	東京教区 安養院	市川 祐純	北総教区 善光寺	弘海 高正	南総教区 笠森寺	小川 長宏
埼玉教区 勝福寺	高栖 恵浩	茨城教区 来迎院	小川 晃史	茨城教区 薬王院	竹林 史典	茨城教区 佛性寺	山田 純永	栃木教区 寶増寺	山田 貫榮	栃木教区 福城寺	村田 庸田

結集研修委員会

委員長(九州西) 一番ヶ瀬順海



— 担当 —

本山・九州西・信越
神奈川・東京・南総・陸奥

結集研修委員会では、平成二十二年に迎える天台仏教青年連盟創立四十周年記念の比叡山中央結集を企画しているところであります。

先日、の定例代議員会にて実行委員会が設立され、当日に第一回の委員会が行われました。平成二十二年に大々的に執行されました三十周年事業に比べますと予算も限られておりますことから、いかにして本山や一宗へ報恩感謝の意を伝えることができるか、法要・記念品・式典等々これから検討していくことは多数ございます。現時点での開催予定は十一月十五日(月)十六日(火)となっております。残された時間も少なくなっておりますので、今後連盟代表・実行委員会の皆様と協議を進めてまいります。

尚、平成二十三年に九州西教区仏青、二十四年に陸奥教区仏青による全国仏青結集が行われることが決定していますのでここに御報告致します。

救援委員会

委員長(東海) 安藤雅仁



— 担当 —

京都・近畿・兵庫・九州東
東海・埼玉・北海道

昨年七月下旬に起きた山口県・福岡県・兵庫県大雨災害に対し各教区仏青様には、お盆のお忙しい中、積極的に募金活動並びに支援活動への御尽力お力添え心より厚く御礼申し上げます。救援委員会では皆様からお預かりした募金を各災害地であります、山口県大雨災害に一四五、三四四円、福岡県大雨災害に一六五、三四三円、台風九号兵庫県大雨災害に一五五、三四四円、台風九号岡山県大雨災害に一五五、三四三円を送金。

独自支援として群馬仏青様から山口県大雨災害、群馬県竜巻災害に各三万円送金。兵庫仏青様におかれましては兵庫県佐用町におきまして実働ボランティアを実施していただき誠に感謝申し上げます。今年度より委員会では、これまでの継続支援団体の検討と見直しを実施し日本赤十字社、ユニセフ、パンニヤメツタ協会、一隅を照らす運動総本部の四団体に支援を決定いたしました。

今後とも皆様方のご理解ご協力をお願い申し上げます。

パソコン委員会

委員長(山陰) 柴山智慶



— 担当 —

滋賀・岡山・山陰
四国・北総・山形

昨年度に引き続き、天台仏教青年連盟ホームページの活用を皆様方に厚くお願い申し上げます。ホームページ上に素材集としてイラスト等公開してございますので幅広く活用していただければと思っております。本年度もより一層の内容の充実を図り、さらに活用しやすいホームページになるよう、これまでの運営をあらためて見直す事思案しています。

具体的を考えている事項としては、現在の掲示板方式の「仏教Q&A」から、これまでの「質問」とそれに対する「答え」の形式にまとめ、質問したい方が「知りたい事」と「答え」並びにそれに関する事柄を簡単に調べられるようにできないかと考えています。

携帯電話のホームページについても検討中です。今後委員で研修会を行い、さらに見識を拡げていく所存です。皆様方にはご理解とご協力をお願い申し上げます。

布教広報委員会

委員長(栃木) 本橋亮智



— 担当 —

三岐・北陸・群馬
茨城・栃木・福島

本年度より布教広報委員長を仰せつかるにあたり、会報「天台仏青連」をより読みやすくより斬新にという意図のもと新たにレイアウトを大きく変更させていただきました。

内容においても特集の頁では来年度の天台仏教青年連盟四十周年記念事業を十年前の三十周年記念事業との対比という形で事前告知するという試みもいたしました。

次号以降も温故知新と申しましようか今までの基本的なところは変えることなく、型に囚われずに新しいものを取り入れて行きたいと思っております。

現布教広報委員会では、委員達がより良いものを創ろうと活発な意見を交わし合い、あらためて皆で創っている実感しております。

今後とも、より良い会報を創る為に皆さんのアイデアやご意見ご協力をお願い申し上げます。

編集後記

今号から布教広報委員のメンバーも入れ替り、新しく栃木・三岐・北陸・群馬・茨城・福島と新しいメンバーで構成されました。又、今号より新たにデザインも一新する事となり、一層読みやすく斬新なデザインにと心がけて作成いたしました。

来年度は天台仏教青年連盟の創立四十周年を向える事となります。そこで今回の特集は過去十年間の結果を振り返り、記事にした訳ですが、何分古くなるにつれ資料も少なく、当時はまだデジカメなどもあまり普及していなかった為、資料を集めるのに苦労いたしました。

紙面構成等、まだまだ改善の余地はあると思います。が、これからも一層研鑽を重ね、より良い会報を作成したいと思っております。

尚、発刊当初から使用させて頂いておりました「天台佛青連」の題字ですが、原本も残っておらず、現在のデジタル化において使用に耐えられなくなっていましたので、今回のデザイン変更に伴い変更させて頂きました。今までの題字は大切に保管させて頂きます。

編集部一同